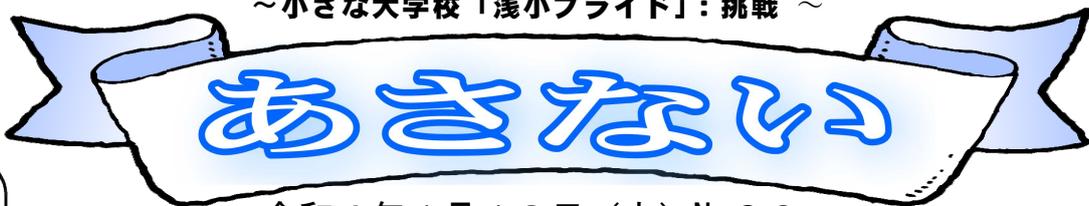




浅小HP
QRコード



令和4年1月18日(火) No.30 文責：校長 矢田部瑞穂

今年もよろしくお願い致します

令和4年1月14日、冬休みの思い出いっぱい子どもたちが登校してきました。子どもたちがいる学校は、やはり活気に満ちています。子どもたちが安全に生活できる学校を維持するため、冬休み明けも感染症等の対策に努めて参ります。この写真は、冬休み明け初日の5年生の給食風景です。しっかりと距離を取り黙食に努めています。5年生だけではなく、全校児童が「マスク・手洗い・消毒・黙食」を徹底しています。このようなご時世を嘆きたくなりますが、自分や友達の命を守るために何ができるのかを考えるとときと捉え、子どもたちや保護者の皆様と共に最善を尽くしていきたいと思えます。「2学期後半をどう過ごすかで4月からのスタートが決まる」と冬休み明け集会で話しました。今年度のまとめの日々を大事に過ごしたいと思えます。今年もどうぞよろしくお願い致します。



第33回読書感想画秋田県コンクール 小学校低学年の部「最優秀賞」



3年 SY

全県1位に輝いたYさんの読書感想画。「『モチモチの木』の主人公：豆太が勇気を出したからモチモチの木が輝いたという喜びのイメージでカラフルに仕上げた」と言う。担任の小松知優先生からイメージに合わせた色や形の表し方を学んだから上手に描けたと自信満々！取材中ずっと「とにかく嬉しい！」と大きな瞳を輝かせるYさんを見ているとこちらまで笑顔になった。



作品名
「世界一きれいな木」

こんなときだからこそ温かい話題

年始のハガキは招福

自分事にする「合言葉」



4年 SS



5年 IS



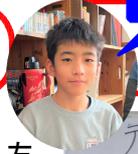
4年 TM



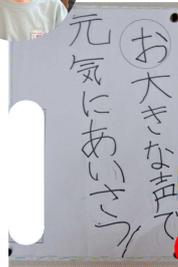
4年 IY



左に4人の年賀状を紹介したが、たくさんの子どもたちから年賀状や寒中見舞いを頂いた。保護者の皆様のご配慮に心から感謝。平安時代から続くと言われる年賀状。最近では年賀状離れが加速しているとのこと。賛否両論あるが、子どもたちから届くハガキは格別。干支の絵や文から一人一人の顔が思い浮かぶ。昨日、IYさんに「私の年賀状ちゃんと届きましたか？」と聞かれ「ありがとう」と言う余裕がなかったことにはっとした。子どもたちに正対していたのかと自問した。子どもたちの言葉や態度から学ぶことがたくさんある。



NS



2年 HF



2年 IN

平成28年から続く本校独自の「合言葉」。今年度は「挑戦」。「合言葉」は校長に与えられるものではなく学校の主役である子どもが決めるものではないかと考え、冬休み明け集会でR4年度の合言葉を自分たちで決めないかと提案した。アンケートや各種調査の結果を基に浅小っ子の課題を考え、克服のための目標を出し合った。合言葉として「自信をもって」「努力」「勇気」「元気」「協力」「みんなに優しく」「全力で取り組む」の7個が出され、来年度最上級生となる5年生にまとめをお願いした。間髪入れずスッと挙手したNSさん。「各種データから自信のなさが課題だと分かったから、合言葉を『勇気』とし、何事にも勇気をもって取り組むことで自信がつくと思う」と。素晴らしい考えとその勇気ある行動に感動した。加えて感動したのが、2・3年生の教室掲示。自分自身の合言葉を考えていた。上に2人紹介したが、理由を問うと、自分の課題を分析し、より高みを目指していた。小学校低学年で自分の課題を考えられることに感動した。



浅小プライド「挑戦」

17日の放課後、HMさんのお母さんが雪でタイヤが取られそうになっている学校までの坂道の雪寄せをやってくださっていた。数名の教員が加勢したが、なかなかの長い道のり。ピロティーでお迎えを待っていた6年男子が「雪寄せしているんですか？手伝いますか？」と声をかけてくれた。人数がいるとはかどる。あっという間にきれいになった。6年男子の自然な声かけと大変なことも楽しそうに頑張る姿が浅小っ子の目指す姿、理想だと思った！さらに、雪寄せして駐車場に戻ると、お孫さんを待っていたHさんのおじいさんが「ごころうさん」と声をかけてくださった。6年生・M母・H祖父に寒さの中、心温まる。

